

採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：社会科学】

大 学 名	京都大学	整理番号	I - 2
拠点のプログラム名称	先端経済分析のインターフェイス拠点の形成		
中核となる専攻等名	経済研究所		
事業推進担当者	(リダー) 佐和 隆光 外29名		
<p>(拠点形成の概要)</p> <p>本拠点がカバーする学問分野は、経済学における先端的理論と先端的実証研究およびその基盤的研究をなす歴史・制度分析である。とくに、90年代以降に急進展した、複雑系経済システム解析、金融工学、ゲーム理論に基づく組織・制度分析と、ますます現実的重要性を増しつつある医療、環境などの応用経済分析の先端分野に重点をおく。また、自然・人文・社会諸科学と先端経済分析の学際的領域も対象とする。本拠点形成の目的は以下のとおりである。(1) 複雑系経済学、金融工学、進化経済学、ゲーム理論の体系的分析枠組みの構築 (2) 応用経済分析の最重要分野である医療、環境、通信への上記の先端的分析手法の適用 (3) 経済学における先端的理論と先端的実証研究の融合を通じた、喫緊の課題に対する斬新な政策提言 (4) 自然・人文・社会諸科学と先端経済分析の相互親和性の深化 (5) 先端経済分析の理論・応用研究、学際的共同研究、産学官共同研究の推進拠点の確立 (6) 社会と先端経済分析研究とのインターフェイスの提供 (7) 大学院教育の国際化 (8) 高度な専門知識を有する社会人および国際的水準に達する若手研究者の養成を行う世界最先端の経済学研究教育拠点の確立</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>本プログラムは、数理経済学などの理論経済学分野をはじめとして、研究成果の発表状況や論文の被引用件数、受賞状況に示されるとおり、多くの研究実績があり、国際研究交流も活発に行われている。教育面においては、課程論文博士をあわせて30人近い博士学位授与者の指導が行われている。これらは、研究教育拠点としての優れた状況と高い可能性を示す。</p> <p>各プログラムの責任者は、各分野で十分な業績を挙げてきており、その意味で着実な研究計画であり、そのイニシアチブの下に若手研究者を中心とした教育体制の活性化に期待する。</p>			